

## 北海道キヤノン CT ユーザー会 2024 秋 開催報告

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 北海道支社

10月19日（土）、北海道キヤノン CT ユーザー会を札幌市にて開催いたしました。当日は朝からあいにくの雨でしたが、遠方のお客様も多数お越しいただきました。また、同日に他の会が重なっていたにも関わらず、34 施設 52 名の先生方が参加されました。各先生方の講演には多くの質問が寄せられるなど、ディスカッションも活発に行われる会となりました。



会場の様子

はじめに、代表世話人である北海道大学病院 笹木先生より開会の挨拶を賜り開会いたしました。情報提供として当社 EIS 営業部の五十嵐より最新の画像解析システムに関する発表を行い Virtual Place と Vitrea の解析アプリケーションの拡充や、読影支援ソリューションの導入・運用事例についてご紹介いたしました。

ユーザー発表セッションでは、柏葉脳神経外科病院 平野先生と華岡青洲記念病院 山口先生の座長の下、2 演題のご講演を賜りました。簡単に先生方の発表内容についてご紹介いたします。

■ 演題①：「Aquilion ONE / INSIGHT Edition 使用経験～導入から約半年～」

演者：小樽市立病院 阿部 恭兵 先生

Aquilion ONE / INSIGHT Edition の搭載機能である PIQE と CLEAR Motion の使用効果について臨床画像を用いてご説明していただきました。会場では「どのような症例に使用しているのか」、「再構成時間にはどのくらいかかるのか」といった質問が寄せられ、先生の実体験をベースとした内容を詳細にご回答いただきました。

■ 演題②：「北海道初導入“Hybrid ER System”」

演者：札幌東徳洲会病院 阿部 圭助先生

ご施設へは 2023 年 12 月に道内初の Hybrid ER System が導入されました。従来 CT と比較し検査から治療までの時間が大幅に短縮されたなど実際の運用の中で感じられた利点を数多くご紹介いただきました。キーボードが動く特注テーブルを使用されているなど、Hybrid ER System ならではの工夫点に興味を寄せられていました。



山口先生(左) 平野先生(右)



小樽市立病院 阿部恭兵先生



札幌徳洲会病院 阿部圭助先生

続いてアプリアワーとして、弊社アプリケーション担当より、Real Prep に関する発表をいたしました。失敗を最小限に抑える Real Prep の使用方法や、TBT 法と Double Bolus Tracking 法のプロトコル作成の方法についてご紹介いたしました。

(ご好評につき配布終了となった資料は遠友 ser 会のホームページにもございます。「遠友 ser 会のワンポイントアドバイス」から、ぜひチェックしてみてください！)

「現行装置を使いこなそう！」のセッションでは、勤医協中央病院 舩山先生と札幌医科大学附属病院 大橋先生の座長の下、弊社 CT が日常業務でどのように使用されているのかについて 4 演題ご発表いただきました。

■ 演題③：「Aquilion Serve 使用経験」

演者：北広島病院 小坂 明彦先生

SEMAR のアーチファクト低減により、従来の 16 列装置では所見が付けられなかった金属ボルトが入った椎体や人工関節のある骨盤内腔の評価が可能になった症例をご紹介いただきました。線量比較についてもお話しいただき、装置更新により患者の被ばく低減がされたことをご紹介いただきました。

■ 演題④：「CTEPH に対して Subtraction Lung を使いこなそう！」

演者：札幌医科大学附属病院 吉川 健太先生

CTEPH (慢性血栓塞栓性肺高血圧症)は“シーテフ”と呼ばれ、難病指定されている疾患です。この疾患に対して後期相から早期相を Subtraction して作成したヨードマップを「仮想ペナブラ」として利用することにより治療方針を決定するという、新規性の高い内容をご発表いただきました。

■ 演題⑤：「低管電圧撮影を利用した下肢動脈造影 CT 検査の取り組み」

演者：清水赤十字病院 中川 英之先生

納入時のプロトコルと異なる条件で撮影された症例をご紹介いただきました。自作ファントムを使用し、管電圧などの条件決定をされた過程までお話しいただき、会場からはこのような条件はどうか、といった意見が飛び交い、様々な議論が交わされていました。

■ 演題⑥：「尿路結石の DECT」

演者：北彩都病院 山代 浩二先生

AiCE-i と SEMAR が併用可能な GG-Helical で撮影した DE 解析についてご紹介いただきました。2 回転 Helical と比較して、SEMAR により骨盤内の石灰化が明瞭になったことや高体重患者に対するアーチファクトの低減の可能性について言及していただきました。



船山先生(左) 大橋先生(右)



北広島病院 小坂先生



札幌医科大学附属病院 吉川先生



清水赤十字病院 中川先生



北彩都病院 山代先生

今後も当社 CT ユーザーの皆様との貴重な情報交換の機会を提供してまいります。より多くのユーザー様のお役に立つ会になるように努めて参りますので、次回のご参加も心よりお待ちしております！！